

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成25年11月14日

上場会社名 株式会社ギガプライズ 上場取引所 名
 コード番号 3830 URL <http://www.gigaprize.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 檀野 敬
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部 (氏名) 木村 賢治 (TEL) 03-5459-8400
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	865	△10.2	24	△38.0	22	△39.4	16	△29.9
25年3月期第2四半期	964	5.1	38	△0.2	37	4.6	23	22.4

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 12百万円(△23.9%) 25年3月期第2四半期 16百万円(△11.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	12.73	12.67
25年3月期第2四半期	18.17	18.10

(注) 当社は、平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,161	653	56.3
25年3月期	1,326	654	49.1

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 653百万円 25年3月期 650百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	10.00	10.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,850	△2.4	150	132.8	144	133.2	81	339.9	63.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 社 (社名) 、除外 1社 (社名) アイ・シンクレント株式会社

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年3月期2Q	1,411,000株	25年3月期	1,411,000株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	138,100株	25年3月期	137,100株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年3月期2Q	1,273,293株	25年3月期2Q	1,273,500株

当社は、平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 経営成績に関する説明	4
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	14
(重要な後発事象)	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、円高是正、株価上昇等は一時の勢いを失い、将来への不透明な状況は依然として国内外ともに根強かったものの、金利の落ち着き、消費税増税に伴う駆け込み需要、2020年オリンピック開催決定等と共に、米国におけるQE3の継続、欧州・中国経済の持ち直し等の国内外経済環境により、目先の景気は緩やかな回復を継続しております。

当社HomeIT事業が主にサービスを提供するマンション業界におきましては、今後消費税増税前の駆け込みの反動や大幅な建設増による工期遅れの影響は予想されるものの、5年ぶり高水準となった住宅着工戸数や、旺盛な物件取得意欲の影響と共に、継続的な市場における当社サービスの需要増加や、昨年来より積極的に進めていた大手顧客開拓、設備・人的投資等の結果、順調に受注・契約戸数を増加しつつ、引き続き解約数を低水準に維持させることができ、過去最大のサービス開始戸数純増を達成し、合わせて下期に向けた受注と来期以降に向けた仕込みも順調に伸長させることができました。

このため、システム開発事業の事業譲渡(平成25年7月1日完了、譲渡先:フリービット(株))等の影響を受けた大幅な売上減や、アイ・シンクレント(株)撤退に伴った特別損失の影響等を和らげることとなり、当第2四半期連結累計期間における経営成績は、売上高865百万円(前年同期比10.2%減)、営業利益24百万円(前年同期比38.0%減)、経常利益22百万円(前年同期比39.4%減)、四半期純利益16百万円(前年同期比29.9%減)となりました。

当第2四半期連結会計期間より、当社のシステム開発事業を譲渡したことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「HomeIT事業」「システム開発事業」から、「HomeIT事業」に変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① HomeIT事業

マンション向けISP事業につきましては、従来からの新築分譲マンション向け並びに、小規模賃貸マンション向けのサービスが順調に推移するとともに、前連結会計年度から進めていた大手顧客との営業強化、全国展開等も確実に成果が上がり、前連結会計年度末と比べ契約数の大幅な増加を実現いたしました。一方、引き続き回線品質向上並びにサービスメニューの強化等、利用者サービスの充実を図っており、解約数を低水準に維持させることができ、当第2四半期連結累計期間におけるサービス戸数は前連結会計年度末に比べ7,431戸増の47,448戸となりました。

ネットワーク事業につきましては、サーバ等のレンタルを行うホスティングサービスやネットワーク機器やサーバの運用・監視を行うマネージド・サービス・プロバイダー(MSP)サービスにおいて、継続的な顧客の囲い込みと新規取引先獲得の結果、堅調に推移いたしました。

こうした事業活動の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、788百万円(前年同期比8.9%増)となりました。

② システム開発事業

システム開発事業につきましては、当社親会社に平成25年7月1日付けで事業譲渡をし、当第2四半期連結累計期間における売上高は、58百万円(前年同期比74.3%減)となりました。

③ その他事業

その他につきましては、人材派遣等を行った結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、18百万円(前年同期比29.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計につきましては、売掛金の回収等により前連結会計年度末に比べ165百万円減少となり、1,161百万円となりました。

負債合計につきましては、借入金の返済により前連結会計年度末に比べ164百万円減少となり、507百万円となりました。

純資産合計につきましては、653百万円となりました。

この結果、自己資本比率56.3%となっております。

② 資金の源泉

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、資産合計の50.8%を占める589百万円であり、当該残高に加え、未使用の借入枠を勘案すると、将来の予想可能な運転資金及び資本的支出等の資金需要に対して十分な財源が存在すると考えております。

③ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前第2四半期累計期間末に比べ34百万円増加し、589百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりであります。

a. 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、123百万円(前年同期比101百万円収入増)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が14百万円、減価償却費20百万円、のれん償却費22百万円、売上債権の減少が65百万円、仕入債務の減少が19百万円になったことによるものです。

b. 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、56百万円(前年同期比30百万円支出増)となりました。これは主に、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出46百万円によるものであります。

c. 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、116百万円(前年同期比32百万円支出増)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出106百万円、配当金の支払12百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の通期業績につきましては、平成25年5月14日付当社「平成25年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

連結子会社であるアイ・シンクレント(株)の株式の全部を同社の少数株主である菊池欣也氏に売却したことに伴い、同社は連結子会社ではなくなっております。

この結果、平成25年9月30日現在では、当社グループは、当社、親会社2社及び連結子会社1社の4社により構成されることとなりました。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	639,210	589,524
受取手形及び売掛金	347,144	281,251
商品及び製品	941	—
仕掛品	11,063	4,337
原材料及び貯蔵品	7,624	7,527
その他	54,855	74,355
貸倒引当金	△1,928	△25,595
流動資産合計	1,058,911	931,399
固定資産		
有形固定資産	130,018	147,799
無形固定資産		
のれん	52,520	30,058
その他	57,118	31,606
無形固定資産合計	109,639	61,664
投資その他の資産	28,380	20,661
固定資産合計	268,037	230,125
資産合計	1,326,949	1,161,525
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	70,158	50,636
1年内返済予定の長期借入金	158,020	104,016
未払法人税等	30,977	6,027
資産除去債務	11,344	—
その他	85,978	74,095
流動負債合計	356,479	234,775
固定負債		
長期借入金	305,302	253,294
退職給付引当金	8,800	9,526
資産除去債務	—	8,579
その他	1,995	1,663
固定負債合計	316,097	273,062
負債合計	672,577	507,838

株式会社ギガプライズ（3830）平成26年3月期第2四半期決算短信（連結）

（単位：千円）

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	192,260	192,260
資本剰余金	112,455	112,455
利益剰余金	460,181	463,651
自己株式	△114,196	△114,886
株主資本合計	650,700	653,480
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	265	206
その他の包括利益累計額合計	265	206
少数株主持分	3,405	—
純資産合計	654,371	653,687
負債純資産合計	1,326,949	1,161,525

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	964,539	865,720
売上原価	650,272	532,556
売上総利益	314,266	333,164
販売費及び一般管理費	275,464	309,117
営業利益	38,802	24,047
営業外収益		
受取利息	156	201
貸倒引当金戻入額	417	—
その他	30	19
営業外収益合計	604	220
営業外費用		
支払利息	1,902	1,586
その他	269	114
営業外費用合計	2,171	1,700
経常利益	37,235	22,567
特別利益		
子会社株式売却益	—	13,461
事業譲渡益	—	21,250
特別利益合計	—	34,711
特別損失		
減損損失	—	41,305
その他	993	1,120
特別損失合計	993	42,425
税金等調整前四半期純利益	36,242	14,853
法人税、住民税及び事業税	23,197	22,120
法人税等調整額	△3,731	△20,071
法人税等合計	19,465	2,049
少数株主損益調整前四半期純利益	16,776	12,803
少数株主損失(△)	△6,361	△3,405
四半期純利益	23,138	16,208

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16,776	12,803
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△31	△59
その他の包括利益合計	△31	△59
四半期包括利益	16,745	12,744
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,107	16,149
少数株主に係る四半期包括利益	△6,361	△3,405

株式会社ギガプライズ（3830）平成26年3月期第2四半期決算短信（連結）

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	36,242	14,853
減価償却費	15,888	20,849
減損損失	—	41,305
のれん償却額	14,708	22,461
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△346	23,667
受取利息及び受取配当金	△156	△201
支払利息及び社債利息	1,902	1,586
子会社株式売却損益（△は益）	—	△13,461
売上債権の増減額（△は増加）	47,791	65,827
たな卸資産の増減額（△は増加）	△52,032	7,266
仕入債務の増減額（△は減少）	△13,016	△19,522
退職給付引当金の増減額（△は減少）	2,180	726
その他	496	△11,002
小計	53,656	154,357
利息及び配当金の受取額	146	115
利息の支払額	△1,935	△1,800
法人税等の支払額	△29,861	△29,541
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,006	123,130
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△8,115	△25,600
無形固定資産の取得による支出	△7,411	△20,927
投資有価証券の取得による支出	△14,400	—
資産除去債務の履行による支出	—	△9,618
差入保証金の差入による支出	△1,836	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	6,603	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△1,003
その他	△692	941
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,852	△56,208
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	10,000	—
長期借入金の返済による支出	△80,868	△106,012
自己株式の取得による支出	—	△690
配当金の支払額	△12,619	△12,572
短期借入金の純増減額（△は減少）	—	3,000
リース債務の返済による支出	△174	△332
財務活動によるキャッシュ・フロー	△83,661	△116,607
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△87,508	△49,685
現金及び現金同等物の期首残高	642,327	639,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	554,819	589,524

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	HomeIT事業	システム開発 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	724,235	225,866	950,101	14,437	964,539
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,000	-	7,000	-	7,000
計	731,235	225,866	957,101	14,437	971,539
セグメント利益又は損失 (△)	47,612	14,442	62,054	△23,252	38,802

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、派遣事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	62,054
「その他」の区分の損失	△23,252
四半期連結損益計算書の営業利益	38,802

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、平成24年6月29日にアイ・シンクレント株式会社を第三者割当増資により取得しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において13,043千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	HomeIT事業	システム開発 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	788,918	58,097	847,016	18,704	865,720
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,370	-	1,370	-	1,370
計	790,288	58,097	848,386	18,704	867,090
セグメント利益又は損失 (△)	66,769	△7,806	58,962	△34,915	24,047

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、派遣事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	58,962
「その他」の区分の損失	△34,915
四半期連結損益計算書の営業利益	24,047

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結会計期間より、当社のシステム開発事業を譲渡したことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「HomeIT事業」「システム開発事業」から、「HomeIT事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失及びのれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメント(子会社)において、アイ・シンクレント㈱のソフトウェアの収益性が低下したこと等に伴い、当該資産の帳簿価額の全額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間においては41,305千円であります。

また、「その他」セグメントにおいて、超過収益力の減少に伴い、のれん償却額を計上しております。

なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第2四半期連結累計期間において10,435千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。